

# 四賀地区 図書だより

令和 8 年 10 月 1 日号

発行 四賀公民館図書視聴覚委員会  
(事務局 TEL 64-3112)

## 私たちの憲法について考えよう



現行憲法である「日本国憲法」が公布されたのは、1946 年 11 月 3 日。施行されたのは翌年の 1947 年 5 月 3 日です。それから、まもなく 80 年になります。

人生のほとんどを、あるいはそのすべてをこの憲法のもとで生きてくると、憲法は普段あまり意識することのない、空気のような存在になっているのかもしれません。

「憲法を変えたい」という動きは、この 80 年の間に何度も起きてきました。しかし、日本国憲法はこれまで一度も改正されたことがありません。

ところが今、これまでになく現実的に憲法改正が行われる可能性が高まっています。近い将来、私たち国民に改正の賛否を問う国民投票が実施されることになるかもしれません。

現在、いくつかの改正案が議論されています。それぞれの改正にはどのような意味があるのでしょうか。そして、それは日本国憲法が掲げてきた理念に沿ったものなのでしょうか。

そのとき私たちは、主権者として自ら判断することを求められます。

賛成、反対のどちらに票を投じるにしても、「何となく雰囲気流されて」あるいは「誰かがそう言っているから」という理由だけで決めるのではなく、自分自身で考え、自分の意思を明確にした上で投票したいものです。

私たちが憲法について学んだのは、中学校の社会科の授業だったでしょうか。その後、あらためて憲法について学ぶ機会は、多くの人にとって決して多くはありません。そのため、私たちは知らないうちに憲法について誤った理解をしているかもしれません。そもそも「憲法とは何のためにあるのか」という問いに、正確に答えられない人も少なくないのではないのでしょうか。

だからこそ、今、あらためて私たちの憲法について考えてみませんか。

80 年という大きな節目を迎える今、日本国憲法とは何なのか、なぜ憲法が必要なのか。そして、これからの日本にとって憲法はどうあるべきなのか。一緒に考えてみたいと思います。

## 今こそ考えよう「現代社会と憲法」

**図書室談義**  
**信州大学出前講座**

講師：信州大学総合人間科学系 准教授 小池洋平先生

日時：11 月 7 日（土）17:00-18:30

場所：四賀支所ピナスホール

憲法については、小学生の頃から勉強します。国民主権・平和主義・基本的人権の尊重といった、いわゆる「憲法の三大原則」を覚えたなあ、なんて方も多いと思います。でも、この「憲法の三大原則」は、なんのためにあるのでしょうか？

この問いに答えるためには、憲法の土台となる思想（立憲主義）を理解することが役に立ちます。また、それだけではなく、現代社会における憲法をめぐる問題を考える際にも、立憲主義という思想は有益です。

今回の図書室談義では、「憲法って、なに？」という素朴な疑問から出発して、立憲主義という思想を 1 つのお土産としてお持ち帰りいただければ幸いです。

### 憲法クイズ

日本国憲法を尊重・擁護するように憲法上義務づけられているのは誰でしょうか？

- ① 国民
  - ② 天皇
  - ③ 内閣総理大臣
  - ④ 国会議員
  - ⑤ 裁判官
  - ⑥ 公務員
- (複数選択 OK)。

**正解は当日会場で！**

# 新着図書・おすすめ図書のご案内

## 新着図書

### 児童書

- 『恐竜トリケラトプス ふぶきのたたかい』 黒川 みつひろ (作)  
『ほげちゃんいなかに行く』 やぎ たみこ (作)  
『宇宙でウンチ』 A. ボンドー=ストーン・C. ホワイト (作)  
『巨石運搬!海を越えて大阪城へ』 鎌田 歩 (作)  
『おちば』 おーなり 由子 (ぶん)

### 一般書

- 『ファイア・ドーム 上・下』 辻村 深月 (著)  
『夏帆』 村上 春樹 (著)  
『雀ちよっちょ』 村木 嵐 (著)  
『女じまい サワコと比呂美』 阿川 佐和子・伊藤 比呂美 (著)  
『急に具合が悪くなる』 宮野 真生子・磯野 真穂 (著)  
『農家が教えるカメムシの防ぎ方』 農文協 (編)  
『がむしゃら なぜ俺は、こんなに走るのか。』 前田 大然 (著)

## おすすめ本

### 『永遠の記憶』 東野 圭吾 著

今年7月に亡くなった東野圭吾さんの遺作となった。

内海薫が刺された。犯人は70歳ほどの老人。飛び降り自殺を図るも失敗し、取り調べには黙秘を貫く。一方、湯川と草薙は、老人の“ある持ち物”を手掛かりに、「忘れてはいけない謎」の扉をひらいていく。ガリレオシリーズ20年の最後の謎。東野圭吾さんの最後にふさわしい作品だと思う。

### 『タイム・アフター・タイム』 吉田 修一 著

建設会社に勤める尾崎楓。同じプロジェクトの担当者として高校の同級生だった久遠愛と再会する。高校時代の離れ難い想いが、20年後に再会した後にどうなっていくのか。人を愛することの喜び、悲しさ、寂しさ、切なさ、読み終わってからも良い余韻を残す長編小説。

### 『隣の畑は青々と』 河崎 秋子 著

北海道十勝を舞台に農業を営む家族や地域の人々の暮らしを描いた連作短編小説。大きな展開はないが、5組の家族の日々の悩みや葛藤、リアルが淡々と描かれている。

気候変動や後継者問題、家族のすれ違い、移住者との関わりなどそれぞれの悩みを抱えながらも、自分の生き方を見つめ直していく姿を描いている。



## 毎年大人気！ 無料配布本のご案内

四賀地区文化祭 11月14日(土) 15日(日) 四賀支所にて開催します  
ご利用ください！

## 編集後記

近年、信州でも8月末から稲刈りが行われるようになった。たわわに実って垂れている稲穂の様は、茶碗によそった美味しい新米を想像する。反面、水害により収穫直前の田畑が水没してしまった映像は、お見舞いの言葉すら出ず胸が締め付けられる。非農家の我が家にとって、食卓でご飯がいただけるということに、心から感謝したい。

